【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成23年10月20日(2011.10.20)

【公開番号】特開2010-138493(P2010-138493A)
【公開日】平成22年6月24日(2010.6.24)
【年通号数】公開・登録公報2010-025
【出願番号】特願2010-26689(P2010-26689)
【国際特許分類】
Ｃ２１Ｂ　7/10　(2006.01)
Ｆ２７Ｄ　1/00　(2006.01)
Ｆ２７Ｄ　1/12　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ２１Ｂ　7/10　３０１
Ｆ２７Ｄ　1/00　Ｄ
Ｆ２７Ｄ　1/12　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成23年9月6日(2011.9.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
炉高方向で炉下部側から順に朝顔部、切立部およびシャフト部を備え、且つ炉下端側に羽口を備え、羽口から微粉炭吹き込みを行う高炉の炉体冷却方法であって、
炉高方向において、炉上部・中部領域（A）を鋳鉄製ステーブで冷却し、
朝顔部の上部領域、切立部の全部領域およびシャフト部の下部領域からなる炉下部領域（B）と、羽口上方における朝顔部の下部領域からなる炉最下部領域（C）を銅または銅合金製ステーブで冷却し、
炉下部領域（B）と炉最下部領域（C）の溶融スラグが存在する領域では、銅または銅合金製ステーブの表面に、ステーブに付着して固化した溶融スラグによる凝固スラグ層を生成させることを特徴とする高炉の炉体冷却方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明はこのような知見に基づきなされたもので、その特徴は以下の通りである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
[1]炉高方向で炉下部側から順に朝顔部、切立部およびシャフト部を備え、且つ炉下端側に羽口を備え、羽口から微粉炭吹き込みを行う高炉の炉体冷却方法であって、

炉高方向において、炉上部・中部領域（A）を鋳鉄製ステーブで冷却し、

朝顔部の上部領域、切立部の全部領域およびシャフト部の下部領域からなる炉下部領域（B）と、羽口上方における朝顔部の下部領域からなる炉最下部領域（C）を銅または銅合金製ステーブで冷却し、

炉下部領域（B）と炉最下部領域（C）の溶融スラグが存在する領域では、銅または銅合金製ステーブの表面に、ステーブに付着して固化した溶融スラグによる凝固スラグ層を生成させることを特徴とする高炉の炉体冷却方法。